



## スクールインフォメーション ~学校だより~

### 6学科に211名が入学

岩瀬農業高校

平成31年度入学式が、4月9日(火)に本校体育館で挙行されました。生物生産、園芸科学、ヒューマンサービス、食品科学、アグリビジネス、環境工学の6つの学科に、合計211名が入学しました。渡辺譲治校長が式辞を述べ、吉田栄光県議会議長(代理として斎藤健治県議会議員が出席)、遠藤栄作鏡石町長、飯村俊夫PTA会長、長谷川建一同窓会会長から祝辞を頂きました。新入生を代表して、園芸科学科の佐藤いづみさんが宣誓しました。



### 始業式・入学式で気持ち新た

第一小学校

4月8日(月)、平成31年度の始業式・入学式を体育館で行いました。始業式では、校長先生から「しっかり勉強してください」との言葉とともに6年生に教科書が手渡されました。入学式では男子48名、女子36名の合計84名の新入生が担任先生から一人一人呼名された後、校長先生から入学を許可されました。6年生代表児童から「学校は楽しいことがいっぱいあります」と歓迎の言葉があり、新入生は真剣な表情で聞き入っていました。



始業式



入学式

### 人事異動 & 入学式

鏡石中学校

#### ◆新しく先生方をお迎えしました

平成31年度の人事異動により9名の先生方が転入してきました。

教頭 左雨 貴子(家庭) 福島県教育庁県中教育事務所より  
 教諭 池田ひろみ(英語) 須賀川市立小塩江中学校より  
 教諭 折笠健二郎(国語) 郡山市立郡山第一中学校より  
 教諭 齋藤 剛(保健体育) 矢祭町立矢祭中学校より  
 教諭 飯野 里美(理科) 石川町立石川中学校より  
 教諭 野中早知子(養護教諭) 須賀川市立阿武隈小学校より  
 講師 近藤 若菜(国語) 古殿町立古殿中学校より  
 講師 鈴木 英史(社会) 新採用  
 学校司書 巴 みどり 新採用  
 今後ともお世話になります。

#### ◆平成31年度第73回入学式が挙行されました

平成31年4月8日(月)13時30分より本校体育館において、42名の来賓の方に来ていただき、111名の新入生が入学を確認されました。これで、今年度の鏡石中学校は、生徒数372名でスタートしました。

入学式では、吹奏楽部による演奏で入退場が行われ、厳粛な中にも新入生らしいはつらつとした式が挙行されました。また、在校生も式を成功させようと、一生懸命式歌を歌う姿が見られました。

### ぴっぴかのまきばっ子 23名入学

第二小学校

4月8日(月)、平成31年度入学式が挙行され、今年度は23名の新入生が入学しました。

式では、鏡石町教育長の渡部修様より教育委員会告示を、鏡石町副町長小貫忠男様、鏡石町議会議長小林政次様、鏡石町立第二小学校父母と教師の会会長佐藤友康様より来賓祝辞を頂戴しました。心温まるお言葉をいただきましたことに感謝申し上げます。

また、在校生を代表して6年生の代表児童が、歓迎の言葉を発表しました。

大きな声で返事ができて、しっかりと話を聞くことができた新入生の態度は、とても立派でした。これからの活躍がとても楽しみです。



## (株)石川製作所・(株)タマテック (諏訪町)

# 壮大な計画 支えた軌跡

太陽系誕生の起源を探るべく、探査機「はやぶさ2」が地球を旅立ってから4年余。小惑星「リュウグウ」へと到着したはやぶさ2は4月5日、衝突装置「インパクタ」を発射し、内部調査のためのクレーターを作ることに成功しました。今回はインパクタの容器開発を手掛けた諏訪町の(株)石川製作所、(株)タマテックの石川澄伸社長らにお話を伺いました。

——実験成功の知らせを受けた時のお気持ちは。

**石川社長** 「真空の宇宙空間で爆発は成功するのか、正常に装置は作動するのか、不安な部分が多かったのですが、まづほっとしました。まさに奇跡だと思います。」

——両社は普段どのような製品を作っているのですか。

**石川社長** 「内視鏡の部品や光通信のコネクタ、測量機器等を手掛けています。タマテックではジェットエンジンの部品も製作しています。」

——改めて「はやぶさ2プロジェクト」参加への経緯に

#### 【はやぶさ2プロジェクト】

太陽系が生まれたころ(約46億年前)の有機物が今も残っていると考えられている小惑星リュウグウから、サンプルを持ち帰ることが目的。探査機のはやぶさ2は2020年末に地球へ帰還する予定。



(写真左から) 吉田武・タマテック副社長、石川澄伸社長、須藤儀一・石川製作所営業推進役

ついてお聞かせください。  
**石川社長** 「インパクタの開発を統括する日本工機(西郷村)さんから平成21年にお話をいただきました。会社としては平成20年に航空宇宙産業に参入したばかりのタイミングでした。」

——インパクタの開発は苦労も多かったと思います。

**吉田武副社長** 「試作品は100個ほど製作しました。インパクタの重量は中に入れて

る火薬を含め10kgという制限がありました。火薬は5kg、弾となる銅板は2.5kgとそれぞれ重量が決まっていたため、容器は2.5kgで作らざるを得ませんでした。当初は銅板とアルミ製の容器をネジ留めする手法を採用していましたが、容器の密閉に問題があることが分かり、素材をステンレス製に変更、銅板を溶接する手法へと切り替えました。重量が増えた分、厚さで



軽量化を図る必要があり、強度と重量のバランスが保てる限界の1mmという厚さにたどり着きました。」

——一つのインパクタを作るまでにどれくらいの時間と費用がかかるのでしょうか。  
**吉田副社長** 「容器は10工程を経て製作され、完成まで1週間ほどかかります。費用は一つ百万円ほどです。」

——開発期間中には東日本大震災がありました。

**須藤儀一 営業推進役** 「熱処理をできる業者が山形県に少なく、当時は往復のガソリン調達に苦労しました。」

——今回の実験成功は町に大きな希望を与えました。町民や未来を担う子どもたちにメッセージをお願いします。

**石川社長** 「私たちは普段どおりのことを続けてきただけですが、結果として町民の皆様や子どもたちに夢を与えることができたならとても嬉しいことです。夢のあるプロジェクトに参加できたことを誇りに思いますし、今後も航空宇宙産業に関わるお話があれば、積極的にチャレンジしていきたいと思っています。」